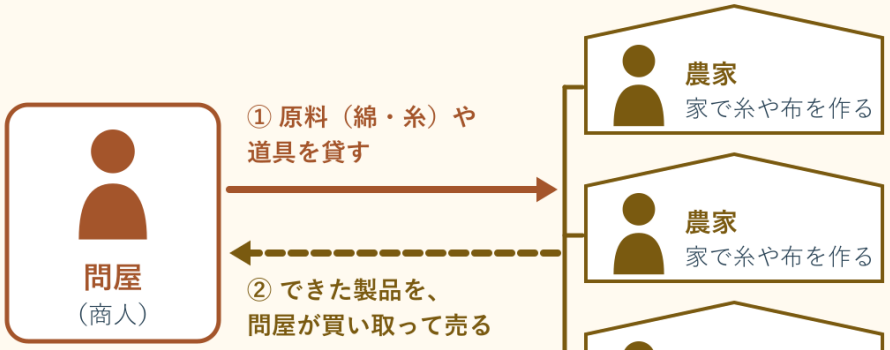
問屋制家内工業から工場制手工業へ

江戸時代の後半、ものづくりのしかたはどのように変わったか

問屋制家内工業

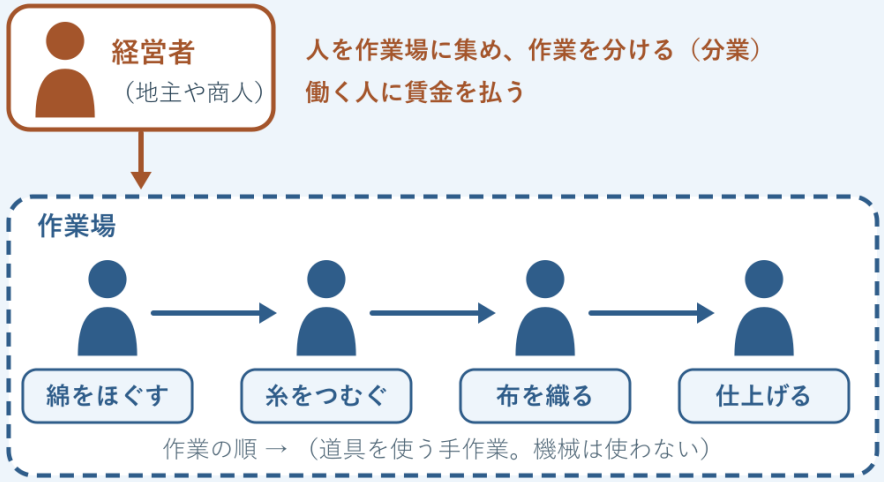
18世紀ごろから



どこで：農家それぞれの家で
だれが：農家の人が、農業の合間に
お金・材料：問屋が原料や道具を用意する

工場制手工業（マニュファクチュア）

19世紀ごろから



どこで：経営者の作業場に集まって
だれが：集められた人が、賃金を受け取って
作業：分業して、手作業で多く作る

ものづくりの移り変わり

変化の背景	問屋制家内工業	工場制手工業	その後
商品作物（綿・菜種など）の栽培と商業が発達し、売るためのものづくりがふえる	問屋がお金と原料を出し、農家が家で作る	経営者が人を作業場に集め、分業の手作業で作る	機械を使う工場での生産（産業革命。日本では明治時代から）

※ 模式図。人物は役割を示す記号。時期や広がり方は地域や業種によってちがう。